

## ■ 報告 ■

このプロジェクトは「四万十町を繋ぐ」ということを主な目的にして取り組みを始めました。四万十町は窪川、大正、十和の旧町村から成っているので、各地域少し文化圏が違う、それぞれに文化圏があるような感じですか。それぞれの地域に文化的なことに対して取り組んでいる方たちが結構いると思います。特に、僕が大道芸をしているので、見ていると、お子さんを対象に活動している方が結構いらっしゃり、共同することができたらいいなと思いました。僕の専門のサーカスで、演劇を使って繋ぐことが出来たら良いなと思って、事業をやらせていただきました。

具体的には、まずフィールドワークを行い、「劇団しまんと」に依頼して、河童に関する劇の脚本を作ってもらいました。この脚本をもとにして地域の紙芝居作家の方に紙芝居を作ってもらい、衣装作りのワークショップをするということを経て、最後にサーカスと演劇の公演を行うということを実際にやりました。

衣装作りとサーカス、演劇については3地区それぞれで行っております。その感想の中にいろいろ面白いことがあり、それをもとにして今後このプロジェクトをどうしていこうかなと今ちょうど考えているところです。

今回やってみてわかったのは、「四万十物語」というプロジェクトが、窪川四万十会館ができた時にあったらしく、ミュージカルの方は有名なのですが、演劇の公演があった、市民劇の公演があったことを覚えている方が声をかけてくれて、またやって欲しいということがあったので、その方々も巻き込みつつ自由に広げていければと思っています。

また、十和の会場でやった時に、十和の民話もリサーチしたらどうかという話があったので、それもやっていこうかなと思っています。感想に、偶然会館にいらっしゃったのだと思うのですが、今治でもやって欲しいという話がありましたので、それもなんとか連携できたらと思っています。

今回の公演なのですが、地元の市民だけでなく、僕が今関わっている高知大学と高知工科大学の、ジャグリングとマジックを部活でやっている大学生も公演に参加してくれています。その大学生と継続的に何か実施できたらいいかなとか、大学生主導で、地域で活動してもらいようなことができればすごくいいな、とか話し合いをしている次第です。

## ■ 視察者からの意見 ■

3会場とも観させていただきました。地域外の大学生が出演されていて、失敗した学生もいましたが、発表の場がないと上手にならないと思うので、学外での発表の場が設けられたことはすごく意味のあることだと思います。12月は寒かったということもあり、お客さんが少なかったことがとても残念で、広報をどの様にされていたかお聞きしたいです。(事務局職員)

ー広報はチラシを作るのがかなり遅れたこともあり、当初考えていたより出来なかったのが正直なところなんです。なので、ワークショップに来てくれた子どもたちに伝えることしかできていま

せん。本来、四万十町で行っているので、四万十町の学校配布に繋げていけたらと思っていました。

■ 会場からの質問 ■

●今治など県外に行くというお話は現実的になりそうですか。

ーまだ話し合っているところで、予算はないけどどうしようかと。メンバーとしては行きたい、四国の違うところで演劇はしたい、と思っています。僕も、関わっている大学生も、行きたいと思っているので、どうしようかなという感じです。